

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570106161	
法人名	医療法人久幸会	
事業所名	りんどうの家	
所在地	秋田県秋田市手形字山崎164番地2	
自己評価作成日	平成28年9月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団	
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1	
訪問調査日	平成28年11月11日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の心情をくみとりスタッフ全員で優しく思いやりを込めたケアの提供をしています。地域の一員としての役割を担えるよう地域の方々との触れ合いを大切にしています。新興住宅地に移転新築し、5年目を迎えて地域にも根ざしつつあります。秋田駅裏に立地し、駅まで徒歩10分、千秋公園まで20分と秋田市中心部にあり、市内を一望することの出来る屋上は、利用者様の良い気分転換の場所となっております。引越し当初より近くの銀行で始めた作品展は、入居者様の大きな楽しみや励みになると共に地域の方々からも好評をいただいております。自由で当たり前の生活が送れ、互いを思いやり、いたわり、優しさのある安らぎを大切にしたいグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の評価で、夜間想定避難訓練回数を増やすことで、より迅速な対応が期待されるという旨の指摘については、改善されていることが確認できた。訓練は毎月という頻度の高さに加え、災害内容に応じた動きを身に付けられるよう毎回想定を変えたり、居室入口には利用者個々の特徴を掲示し、外部からの応援者も対応しやすいよう工夫したり、併設の障害サービス事業所と合同の訓練を行うなど熱心な取り組みがなされている。ただ、今後は年間計画に基づいた実施や評価をすることで、より効果的な災害対策を講じることができるものと期待される。  
事業所は市の中心部に立地し、徒歩圏内に芸術や文化、自然に触れることができる社会資源が豊富にある。法人の医療機関で実施している認知症専門のデイケアは県内唯一で、作業療法士による個別のメニューも設定され、利用者全員が週1回通い、有意義な時間を過ごされている。アンケート(満足度調査)を年2回実施し、出された意見を前向きに受け止め、サービスの向上に繋げている。また、毎年度職員個々に理念に基づいた目標を設定し、達成度を定期的に評価することでケアの質の向上を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「思いやり」を掲げている。理念は、年度末のミーティングで全スタッフで評価、見直しを行っている。リビングに明示し、日々折に触れ浸透、実践を図っている。	事業所の理念は毎年度末、職員全員の話し合いで見直しされている。リビングに掲示し、日々の具体的なケアの中で意識して関わられるようにしている。理念の見直しは設立当初から毎年行っており、「思いやり」は2回目の設定となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内総会や地域行事には、積極的に参加し、地域との関係を深める努力をしている。事業所便りを町内全戸や近隣に配布し、地域の銀行で入居者様の作品展を年1回開催している。	新興住宅地で、地域全体が近隣との関りが希薄な傾向にある中、町内全戸(40軒余り)にホームだよりを配布したり、近くの銀行で利用者の作品を展示するなど事業所の認知度を高める努力を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	入居者様と一緒に地域の方へも講師による作品作りやお茶会への参加を呼び掛けている。その際は、ゆっくりお話を聞く時間を設け必要に応じて支援体制がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し運営状況や活動状況、ヒヤリハット体験、事故報告、研修状況等報告し構成員の方々から様々な視点でのご意見を頂き、即座に検討実行している。	会議の中で出された意見や提案については、速やかに検討・対応する姿勢を継続している。具体的には、災害マニュアルの見直し、利用者・家族アンケート(満足度調査)実施結果の書面評価などサービス向上に向けた取り組みが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の包括支援センターの職員が運営推進会議に委員として毎回参加して情報交換し、取り組みに助言や指導を頂いている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が毎回参加し、情報交換や助言・指導を受けたり、市内のグループホームの会「ケアパートナーズ」が行う研修会で、市介護保険課から毎年情勢報告を受けている。また、生活保護受給者が5名いることで、利用者の状態報告など市の担当者との情報交換も密に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで研修資料の読み合わせを行い、身体拘束による弊害を理解し、共通の認識を持って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。建築構造上、玄関は鍵使用のエレベーターとなっており、安全上配慮されている。	身体拘束の実施事例はない。身体拘束をしないケアについては、法人研修の他、ホームのミーティングでも共通認識を持って取り組めるよう参考資料の読み合わせなどを行っている。ホームは3階建ての2階部分で、建物の構造上エレベーターは鍵使用となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活において、そのような行為がないようスタッフに声掛け注意をしている。又、研修会に参加し学ぶ機会を作っている。研修で学んだことは、ミーティングで全スタッフにフィードバックし、情報の共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当相談員と連携を図り、必要性のある利用者様には、活用の有無を含め相談を受け支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主治医、利用者様、ご家族様、相談員、管理者等で十分な話し合いを行い、意思確認を行った上で決定している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的窓口を文書及び口頭で紹介し、事業所内には、苦情・相談窓口担当氏名を提示し、投書箱を設置している。意見等があった場合は、速やかに協議し、改善に繋げている。	年2回、利用者・家族へのアンケート(満足度調査)を実施し、サービスの向上に繋げている。また、面会や電話連絡などの際、気軽に話せる雰囲気づくりを心掛け、家族等から出された意見を前向きに受け止め、サービスに活かしていく姿勢が伺われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンス、ミーティング以外でも日常的に意見が出され、業務改善がなされている。	法人の代表と面談する場面は少ないが、管理者を通じて職員の意見や提案をする機会は日常的にある。法人代表が主治医となっていることから、受診時、利用者の状況報告も含め、実施した事業内容を写真等で報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価し、個々の状況を把握している。又、それと共に面接を行って向上心に繋がるアドバイスがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の推奨や経験年数、レベル、希望に応じて法人内外の研修参加を進めている。又、法人内の安全管理や院内感染対策の勉強会には、全員必須で参加しながら、知識習得出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症GH連絡会の勉強会や相互交流にスタッフ全員が参加して情報交換や親睦が図れるよう努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と面談を交わし、心身の状況や要望等を受け入れ、段階的に安心感が得られる対応を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話でもご家族様の心情を十分に聞き取り、受け止める等安心感が得られる対応を図っている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の切り方、調理の味付け、盛り付け、暮らしの知恵、培ってきた知識を日常生活のさまざまな場面において、それぞれが得意な所で参加して頂き、助け合って生活している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の些細な事でも互いに情報交換し共に支え合っていく事への結びつきを深めている。又、協力を頂ける範囲内で諸事の付き添いを行ってもらい、共に利用者様をサポートしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が大切にしてきた方や場所との関係の継続が図れるよう支援している。	訪問してくれる馴染みの理美容店を利用しているが、個別に近隣の慣れた理髪店を利用している方もいる。また、ドライブ外出で出かけた際、ご本人が勤めていた会社を車窓から見たり、売店に立ち寄ったりするなど馴染みの人や場所との関係性を大事にしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、話題を提供するなどして全員とのコミュニケーションの場が作られている。一人一人が大切な存在である事を認め合い支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからでもご本人、ご家族を見掛けた時には、どうしていらっしゃるか声を掛けたり、心配や不安があればアドバイスしている。要望や依頼があればいつでも対応し、役立ちたいと思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で表情や動作・会話などから思いや希望の把握に努め、その人の思いに沿いながらホームでの生活を提供している。	毎月のミーティング(14:00～)に利用者が参加する場を設定し、食事や外出などの要望を伺っている。提案された要望はできる限り実現させようと職員が一丸となって取り組んでいる様子が伺われた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	好みや嗜好に配慮し、思い出の品物や馴染みのある品物を持って来て頂き、今までと変わらぬ本人主体の暮らしが継続できるよう支援している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムと毎日の体調管理には、十分気を配り、日常生活動作において有する力を発揮できるよう支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは、3か月に1回見直しをしておりモニタリングや担当者会議で、ご本人の意向の確認や要望も取り入れた、現状に即した計画作成をしている。ご家族からは、面会時や電話で意向等を伺っている。	担当者会議には、できるだけ利用者本人の参加をお願いし、意向確認や要望を伺っている。担当制を取り入れ、より一人ひとりの現状に即した計画を作成できるよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時ミニカンファレンスを行い、ケアの具体策を挙げ、見直しを行いながら介護計画の作成に成り立たせている。情報共有は、申し送りと記録物で徹底されている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が希望する近隣の医院や1階手形ハウス売店、本屋、訪問美容・食堂・デパート等を利用し生活の質の向上に努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に希望する医療機関を伺っている。又、協力医療機関の説明を行っており、かかりつけ医の他、自由に選択できるようにしている。	入居にあたっては、法人の医療機関受診を勧めている。現在、利用者は全員が法人医療機関の医師が主治医となっている。通院支援は法人の医療機関であればホームスタッフが付き添うため、家族の安心感にもつながっている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への状態報告を行い、必要時は必要医療機関への受診をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当相談員を介して積極的に情報交換や相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	様々な専門分野との連携と終末期介護におけるチームアプローチがスムーズに行えるよう、共通理解の為に話し合いを重ねている。	契約時、重度化した場合の対応指針を書面で説明している。ただし、ホームでの看取りは行わない旨対応指針の中で明記している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救急救命の講習会を受講する等、緊急時の初期対応の訓練を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の火災や風水害、地震を想定した避難訓練を実施すると共に非常災害用の食品備蓄をし、いざという時に備えている。避難をする際の1階手形ハウスとの協力体制を確認したり、運営推進会議では、避難方法等説明し、意見を頂いている。	毎月避難訓練を実施している。火災や風水害、地震等を想定した避難訓練を実施すると共に、食糧の備蓄もされている。避難の際はホーム単独ではなく、1階部分の障害者の事業所「手形ハウス(宿泊型自立訓練)」と協力体制を築いている。	毎月タイムリーな内容で避難訓練を実施しているが、実施内容を十分検討しながら年間計画を立てて実施した方が、より効果的な災害対策が講じられるものと期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個別性を尊重し、尊厳を大切にされた対応をしている。法人内に接遇委員会があり、法人全体の接遇のレベルアップに取り組んでいる。又、事業所独自に年間の接遇目標を立案し、毎月のミーティングで目標を確認している。	法人で接遇委員会を組織し、接遇のレベルアップに取り組んでいる。各事業所毎にも年間の接遇目標を掲げ、ホームでは毎月のミーティングで目標の達成状況を確認している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしの中で希望が取り入れられるよう選択する機会を設けて自己決定できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が希望する思い通りの生活空間で日々を過ごせるよう支援している。健康状態の把握や一人ひとりの思いに寄り添い、ご本人が望む生活をサポートしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服選びや身だしなみについては、さりげない手助けをしている。希望に沿って理・美容院の予約をし、いつまでもきれいでありたい思いや清潔保持したい思いに沿って支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使った季節料理を、利用者様と一緒に考え、作ったりしている。それぞれが参加できる方法を見つけ準備や片づけを行い、食事が楽しみとなるような働きかけをしている。	法人内の栄養士が栄養バランスやカロリー等に配慮した献立を作成している。全員が自力摂取できる方々で、訪問時も和やかな食事風景や利用者が手際よくお盆拭き等の片づけを手伝っている姿を見せていただいた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を基に調理し、栄養バランスのとれた食事提供している。水分摂取量は、1日のトータルを出し、水分不足にならないよう配慮している。一人ひとりの既往歴を踏まえ、食事摂取カロリーにも配慮している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の嗽・手洗いや毎食後の歯磨きは、習慣化している。出来ない所のお手伝いすることで一人ひとりが清潔保持できるよう支援している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解して失敗のないよう排泄誘導をしている。失敗した時でもプライバシーに配慮し、自尊心を傷つけないさりげない対応をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声掛けで失禁等ないように配慮している。リハビリパンツの着用が必要になった場合は、自尊心を傷つけないよう配慮し、「初めて使う時の抵抗感」を十分理解してあげられるような対応を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の便秘予防に取り組んでいる。朝食時は、カスピ海ヨーグルトを出し、お腹にやさしい便秘予防に努めている。更に腹部マッサージやラジオ体操、介護予防体操と運動を取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間を問わず、入浴の希望や必要があった場合は応じている。入浴前は、バイタル測定し、健康状態に合わせて湯温や時間を調整し、楽しんでもらっている。	午後に入浴時間を設定しているが、希望があれば午前でも実施できる体制は整えている。少なくとも週2回は入浴していただくよう個別の確認を行っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よい疲労感を持つことで休息や安眠に結びつくよう、1日に生活リズムや運動量の確保に努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容を記録し、目的や副作用を把握するよう努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や経験を生かし得意な事や好きな事、趣味を続けられる環境作りに努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って買物や散歩の支援をしている。普段いけない場所であれば、外出レクリエーション等要望に答えている。又、ご家族や友人等の協力を得て、積極的に外出支援を行っている。	地の利の良さから、個別外出も含め様々な場所に出かけることができている。「千秋公園」や「アルベ」、新幹線「こまち」の見学等は徒歩で行くことができ、利用者から喜ばれている。また、法人の医療機関で実施している認知症専門のデイケアに利用者全員で週1回通っている。作業療法士による個別のメニューも設定され、有意義な時間を過ごすことができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談した上で本人が管理できる金額を持ってもらい、使っている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は、自由に出したり利用して頂いている。必要に応じてサポートしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節の装飾をし、季節を感じとれる工夫をしている。普通家庭と同じように台所からは、食事の準備をしている匂いや音が聞こえてくる。自然光を取り入れた暖かい空間づくりをしている。	共有空間は、自然光を取り入れた暖かい空間づくりで、台所からは、食事の準備をしている匂いや音が聞こえ、日々の暮らしを感じられるようにしている。また、ホーム内には季節を感じとれるような装飾の工夫をしている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやホーム内に1人掛け椅子を置き思い思いの時間を過ごせるよう担っている。新聞や雑誌は、自由に読めるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	GHでの生活が入居前の生活の延長線であるようにできるだけ、思い出の品物や馴染みのある品物を取り入れるよう工夫している。	居室には、馴染みの生活用品や家族の写真などが持ち込まれ、安心できる居場所となっている。症状に応じて、家族と相談し危険防止の対策を講じながらも、本人が安心して過ごせるよう配慮している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の為、施設内は、バリアフリーとし、廊下、トイレ、浴室には手すりを施し、高齢者の生活に優しい環境となっている。居室入口には、わかりやすいようネームプレートをつけたり、トイレがわかりやすいような配慮をしている。		